

チタン／生体組織相互作用における 水和相の役割理解と応用



松本 卓也

岡山大学・教授

生体組織に対する高強度接着材としてのチタンシートを開発しています。これまでにチタン表面の中間水量がチタンと特定の生体分子との接着に影響することを示してきました。本研究では水素導入量を調整することで実現するチタン表面の異なる水和相状態を元に、種々の生体

分子との親和性変化を検討し、チタンシートの接着性制御を目指します。生体内環境は親水性分子と疎水性分子とが高密度に混在する複雑な環境であり、材料表面水圏を基盤とした分子間相互作用の理解は、「生体親和性」という言葉をより厳密に議論するうえでも重要です。

